

教育政策に揺れる日本語, 「学習」 vs. 「学修」 2 ——「学習」「学修」を後部要素とする合成語——

渡 邊 ゆ かり

1. は じ め に

平成 24 年 8 月 28 日に行われた中央教育審議会第 82 回総会において、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」（以下、「中教審答申 24.8.28」と称す）が取りまとめられた頃より、大学教育の現場で「学修」の 2 文字に関心が注がれるようになった。渡邊（2016）では、このような背景を踏まえ、教育現場において「学習」「学修」を前部要素とする合成語の使用が、「中教審答申」が取りまとめられる以前と以後とでどう変化したかを分析した。

その結果、「中教審答申」で「学修＋後部要素」の形での出現率の高かったものを中心に、大学の教育現場において「学修＋後部要素」の使用の増加が認められることが明らかとなった。

本稿では、本調査に引き続き実施した、教育現場における「学習」「学修」を後部要素とする合成語の使用に関する調査結果を報告する。

2. 先 行 研 究

ここでは、本研究に先立ち行った「学習」「学修」を前部要素とする合成語について渡邊（2016）の分析を概観する。

渡邊では、まず、『汉语大词典缩印本』¹『広辞苑』第 6 版の意味記述の

調査から、日本語における「学習」「学修」の原義について以下の言及を行った。

『広辞苑』には①の「まなびならうこと」もあるが、『汉语大词典』における「學習」の意との対応関係から、日本語としての原義は、他者から知識や技術を授かることなく、自らの経験を通し知識や技術を獲得することであったと考えられる。

一方、「学修」は、「学ぶ」行為に位置づけられる点で「学習」と一致するものの、「学び」の対象が「学問」に限定されており、「おさめる」「修学」とあるように「学問を獲得する過程」よりむしろ「学問を獲得し終えること」に焦点が置かれている。

次に、「学校教育法施行規則」「大学設置基準」を対象とした調査より、これらにおいて「学修」が、単位認定や卒業認定、評価に言及する部分でのみ使用されていることを明らかにした。

最後に、教育現場における「学習」「学修」の揺れに関する調査のうち、1つ目の「中教審答申 24.8.28」を対象とする調査からは、「中教審答申 24.8.28」では、「学校教育法施行規則」「大学設置基準」と異なり、大学における学びか否かという独自の意味規準にもとづき、「学習」「学修」を使い分けていることが確認された。また、2つ目のBCCWJ、TWCを対象とした調査、3つ目のCinii Articles 登録論文タイトルを対象とした調査、4つ目の大学関係サイト、高校関係サイトを対象とした調査からは、「中教審答申 24.8.28」で「学修+後部要素」の形での出現率の高かったものを中心に、大学の教育現場において「学修+後部要素」の使用の増加が認められることが確認された。

本研究では、以上の渡邊の分析結果を踏まえ、教育現場における「学習」「学修」を後部要素とする合成語の揺れに関する調査、分析を行った。

3. 分 析 方 法

まず, 「中教審答申 24.8.28」において「前部要素+学習」「前部要素+学修」にどのようなものが存在するかを調べた。調査においては, Web 上で公開されている以下の「中教審答申 24.8.28」(資料編を除く)の pdf ファイルから検索ツールを用いて該当語を抽出し, 各語の使用頻度を調べた。

- www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afiedfile/2012/10/04/1325048_1.pdf
- www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afiedfile/2012/10/04/1325048_2.pdf
- www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afiedfile/2012/10/04/1325048_3.pdf
- www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afiedfile/2012/09/10/1325048_4.pdf

次に, 「中教審答申 24.8.28」中に存在する「前部要素+学習」「前部要素+学修」の前部要素に着目し, これらと「学習」が結びついた形, これらと「学修」が結びついた形が「日本語書き言葉均衡コーパス」(以下「BCCWJ」と称す)², 「筑波ウェブコーパス」(以下「TWC」と称す)³中に何例存在するかを調べた (BCCWJ, TWC ともに, 2014 年 11 月 2 日検索)。なお, これらのコーパスのうち, BCCWJ については, 中納言⁴の短単位検索で以下の検索条件を指定して該当語を抽出した。

【「前部要素+学習」の場合】

キー…語彙素が「学習」

前方共起…キーから 1 語, 品詞の大分類が名詞

【「前部要素+学修」の場合】

キー…語彙素が「学修」

前方共起…キーから1語、品詞の大分類が名詞

また、TWC については、NINJAL-LWP for TWC⁵ を用い、「名詞+学習」「名詞+学修」のパターンを選択し、各語を抽出した。

続いて、以下の前部要素と「学習」「学修」からなる合成語がタイトル内に存在する CiNii Articles 登録論文数を調べた（2015 年 8 月 31 日検索）⁶。

- 「中教審答申 24.8.28」中の「前部要素+学習」「前部要素+学修」の前部要素
- TWC 中で使用頻度が1,000以上の「前部要素+学習」の前部要素のうち、「中教審答申 24.8.28」に存在しないもの

また、その際「中教審答申 24.8.28」が出される前の2006年－2010年の
公刊論文数と「中教審答申 24.8.28」が出された後の2012年－2014年の
公刊論文数を比較した。

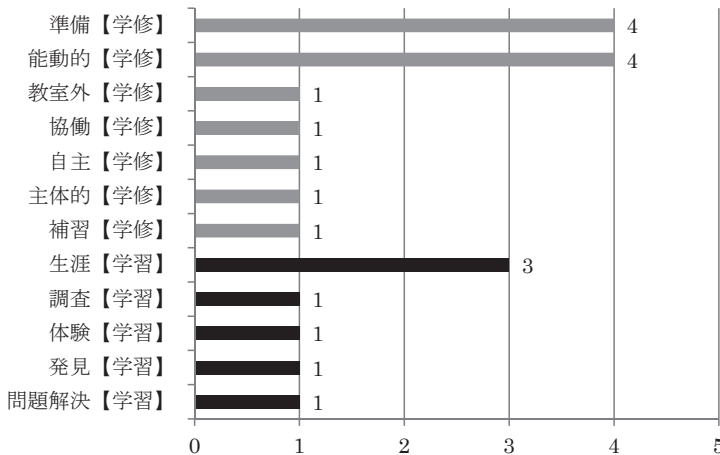
最後に、先の CiNii Articles 登録論文タイトル調査で対象とした「前部要素+学習」「前部要素+学修」について、大学関係サイトと高校関係サイトでどの程度使用されているかを調べた。本調査では、以下のクエリで Google 検索を行い、検索ヒット数の観点から大学関係サイト、高校関係サイトにおける各語の使用率を比較した（2015 年 9 月 3 日検索）⁷。
なお、クエリ中の□部分、は、調査対象とする前部要素が入る。

- “□学習” AND “高校” - “大学” site:ed.jp
- “□学修” AND “高校” - “大学” site:ed.jp
- “□学習” AND “大学” - “高校” site:ac.jp
- “□学修” AND “大学” - “高校” site:ac.jp

4. 調査結果

4.1 「中教審答申 24.8.28」中の「前部要素+学習」「前部要素+学修」

まず, 「中教審答申 24.8.28」中の「前部要素+学習」「前部要素+学修」の語例とその出現頻度は, 以下のグラフ1の通りであった。



グラフ1 「中教審答申 24.8.28」中の「前部要素+学習」, 「前部要素+学修」

グラフ1より, まず, 「前部要素+学習」は, 異なり語数が5, 延べ語数が7であり, 「前部要素+学修」は, 異なり語数が7, 延べ語数が13であることがわかる。従って, 異なり語数, 延べ語数ともに「前部要素+学修」の方が「前部要素+学習」より多い。ただし, 「前部要素+学習」「前部要素+学修」のいずれも, 突出して出現頻度の高い合成語は存在しない。

次に, 「学習」「学修」の前部要素として現れる要素は, 二律背反的に使用されていることがわかる。すなわち, 「学習」と結びつく要素で「学修」と結びつく例は存在せず, 「学修」と結びつく要素で「学習」と結びつく要素は存在しない。この点は, 「中教審答申 24.8.28」中における

「学習＋後部要素」「学修＋後部要素」とは異なる。

「学習＋後部要素」「学修＋後部要素」を対象とした渡邊の調査では、「意欲」「時間」の2語については「中教審答申 24.8.28」中において「学習」と結びつく例、「学修」と結びつく例のいずれも存在した。また、その場合、高校教育の学びに言及する時は「学習」、大学教育の学びに言及する時は「学修」のように使い分けられていた。

一方、本研究対象である「前部要素＋学習」「前部要素＋学修」については、「生涯学習」のように、大学教育に限定されない学びに対して「学習」が用いられているほか、「調査」「体験」「発見」「問題解決」のように、学ぶ上でのタスクを表す前部要素に対し「学習」が用いられていた。なお、この「調査学習」「体験学習」「発見学習」「問題解決学習」は、用語集のアクティブ・ラーニングの定義の部分で使用されていた。

4.2 BCCWJ, TWC 中の「前部要素＋学習」「前部要素＋学修」

次に、「中教審答申 24.8.28」中に存在する「前部要素＋学習」「前部要素＋学修」の前部要素に着目し、これらと「学習」が結びついた形、これらと「学修」が結びついた形が BCCWJ, TWC 中に何例存在するかを調べた。結果は、表 1、表 2 の通りである。なお、表 1、表 2 中の【がくしゅう】は、「学習」「学修」を構成員とするカテゴリーを示している。

表 1 に見るように、BCCWJ 中には、「教室外【がくしゅう】」「協働【がくしゅう】」「発見【がくしゅう】」「補習【がくしゅう】」は存在しなかった。また、表 2 に見るように、TWC 中には、「協働【がくしゅう】」は存在しなかった。

表 1、表 2 より、「中教審答申」中の「学習」「学修」の前部要素は、BCCWJ, TWC で【がくしゅう】と結びつく例の存在しなかったものを別とし、いずれも「学修」ではなく「学習」と結びつく傾向にあることがわかる。

表1 BCCWJ 中の「前部要素+学習」「前部要素+学修」

	(a) 学習	(b) 学修	(a) + (b)	(a) の比率	(b) の比率
教室外【がくしゅう】	0	0	0		
協働【がくしゅう】	0	0	0		
自主【がくしゅう】	14	0	14	100%	0%
主体的【がくしゅう】	5	0	5	100%	0%
準備【がくしゅう】	2	0	2	100%	0%
生涯【がくしゅう】	1,467	0	1,467	100%	0%
体験【がくしゅう】	197	0	197	100%	0%
調査【がくしゅう】	2	0	2	100%	0%
能動的【がくしゅう】	2	0	2	100%	0%
発見【がくしゅう】	0	0	0		
補習【がくしゅう】	0	0	0		
問題解決【がくしゅう】	6	0	6	100%	0%

表2 TWC 中の「前部要素+学習」「前部要素+学修」

	(a) 学習	(b) 学修	(a) + (b)	(a) の比率	(b) の比率
教室外【がくしゅう】	2	0	2	100%	0%
協働【がくしゅう】	0	0	0		
自主【がくしゅう】	311	0	311	100%	0%
主体的【がくしゅう】	26	1	27	96%	4%
準備【がくしゅう】	37	0	37	100%	0%
生涯【がくしゅう】	5,009	0	5,009	100%	0%
体験【がくしゅう】	2,640	15	2,655	99%	1%
調査【がくしゅう】	6	0	6	100%	0%
能動的【がくしゅう】	9	0	9	100%	0%
発見【がくしゅう】	11	0	11	100%	0%
補習【がくしゅう】	6	0	6	100%	0%
問題解決【がくしゅう】	131	0	131	100%	0%

4.3 CiNii Articles 登録論文タイトル中の「前部要素+学習」「前部要素+学修」

続いて、以下の前部要素と「学習」「学修」からなる合成語をタイトル中に含む CiNii Articles 登録論文数を調べた。

- 「中教審答申 24.8.28」中の「前部要素+学習」「前部要素+学修」の前部要素
- TWC 中で使用頻度が 1,000 以上の「前部要素+学習」の前部要素のうち、「中教審答申 24.8.28」に存在しないもの

結果は、表 3 の通りである。

表 3 CiNii Articles 登録論文タイトル中の「前部要素+学習」「前部要素+学修」

	学習 (‘06-’10)	学修 (‘06-’10)	学習 (‘12-’14)	学修 (‘12-’14)	合計
英語【がくしゅう】	614	0	385	0	999
家庭【がくしゅう】	45	0	52	0	97
環境【がくしゅう】	283	0	94	0	377
教室外【がくしゅう】	0	0	0	0	0
協働【がくしゅう】	39	0	95	0	134
自主【がくしゅう】	54	0	27	1	82
主体的【がくしゅう】	15	0	62	3	80
準備【がくしゅう】	5	0	2	0	7
生涯【がくしゅう】	1,602	0	585	0	2,187
体験【がくしゅう】	646	4	284	4	938
調査【がくしゅう】	6	0	7	0	13
日本語【がくしゅう】	845	0	559	0	1,404
能動的【がくしゅう】	18	0	14	9	41
発見【がくしゅう】	38	0	3	0	41
補習【がくしゅう】	0	0	7	0	7

問題解決【がくしゅう】	72	0	56	0	128
合 計	4,282	4	2,232	17	6,535

まず, 表3に見るように, 「教室外【がくしゅう】」をタイトルに含む論文はヒットしなかった。

次に, 表3より, Cinii Articles 登録論文のタイトルについても, 「学習」「学修」の前部要素は, いずれも「学修」ではなく「学習」と結びつく傾向にあることがわかる。また, 「前部要素+学修」について「中教審答申 24.8.28」が出される以前と以後で出現比率に有意な増加が見られるか否かについて χ^2 乗検定を用いて調べたところ, $P<0.05$ で該当したのは「能動的学修」のみで, 増加率は, 39.1%であった。

4.4 高校関係サイト, 大学関係サイト上の「前部要素+学習」「前部要素+学修」

最後に, 先の Cinii Articles 登録論文タイトル調査で対象とした「前部要素+学習」「前部要素+学修」について, 大学関係サイト, 高校関係サイト各々における両者の使用比率を調査した。結果は, 表4の通りである。

表4 高校関係サイト上の「前部要素+学習」「前部要素+学修」

	学習 (高校)	学修 (高校)	学習 (大学)	学修 (大学)	母比率の差 の検定結果
英語【がくしゅう】	2,660	0	39,400	128	$P<0.01$
家庭【がくしゅう】	29,600	1	3,430	2	$P<0.01$
環境【がくしゅう】	3,330	0	11,300	23	$P<0.01$
教室外【がくしゅう】	0	0	562	209	検定不可能
協働【がくしゅう】	517	0	4,480	67	$P<0.01$
自主【がくしゅう】	7,730	0	12,900	219	$P<0.01$
主体的【がくしゅう】	744	0	14,600	794	$P<0.01$

準備【がくしゅう】	221	0	39,000	6,770	$P<0.01$
生涯【がくしゅう】	7,530	0	273,000	45	$P\geq 0.05$
体験【がくしゅう】	56,600	2	52,600	844	$P<0.01$
調査【がくしゅう】	610	0	1,580	66	$P<0.01$
日本語【がくしゅう】	1,010	0	44,500	37	$P\geq 0.05$
能動的【がくしゅう】	98	3	6,020	1,160	$P<0.01$
発見【がくしゅう】	111	0	1,710	9	$P\geq 0.05$
補習【がくしゅう】	1,130	0	121	2	$P<0.01$
問題解決【がくしゅう】	287	0	4,130	9	$P\geq 0.05$
合 計	112,178	6	509,333	10,384	$P<0.01$

表4に見るように、高校関係サイトでは、検索結果が0件の「教室外【がくしゅう】」を別とし、いずれの前部要素も「学修」ではなく「学習」と結びつく傾向にあることがわかる。

また、大学関係サイトにおいても、いずれの前部要素も、相対的には、「学修」より「学習」と結びつく傾向にある。しかしながら、高校関係サイトにおける「学習」「学修」の比率と、大学関係サイトにおける「学習」「学修」の比率の差の検定を行ったところ、表4に示したように、以下の11要素において、 $P<0.01$ で有意差が認められた。

高校関係サイトと大学関係サイトで「学習」「学修」の比率に有意差が認められた前部要素

英語，家庭，環境，協働，自主，主体的，準備，体験，調査，能動的，補習

すなわち、これらの要素が「学修」と結びつく比率は、高校関係サイトに比べ大学関係サイトの方が高いといえることができる。

一方、 $P\geq 0.05$ で有意差が認められなかった要素は、以下の4語である。

高校関係サイトと大学関係サイトで「学習」「学修」の比率に有意差が認められなかった前部要素

生涯、日本語、発見、問題解決

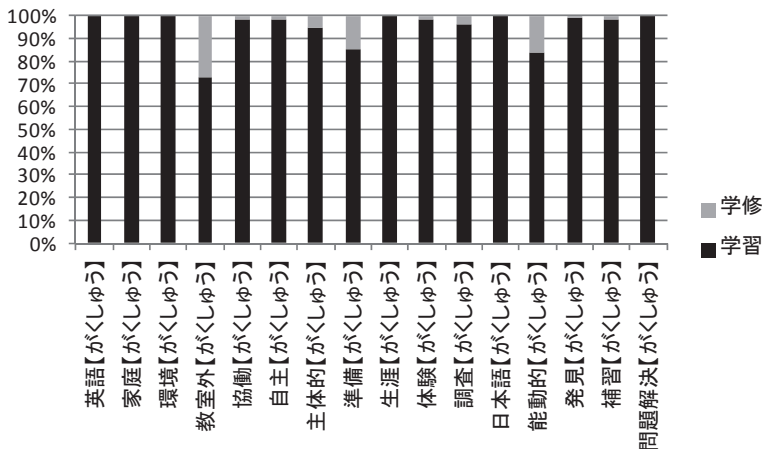
すなわち、これらの要素が大学関係サイトで「学修」と結びつく比率は、高校関係サイトと同じであり、「学修」ではなく「学習」と結びつく傾向が極めて強いといえることができる。

残る「教室外」については、高校関係サイトでの検索結果が0件であったので、検定は不可能であった。

以上の調査結果より、今回調査対象とした「前部要素+学修」の多くは、高校関係サイトよりも大学関係サイトに現れやすいことが確認できた。

しからは、大学関係サイトにおける「前部要素+学習」と「前部要素+学修」の比率はどのようなであろうか。

大学関係サイトにおける「前部要素+学習」と「前部要素+学修」の比率は、以下のグラフ2の通りであった。



グラフ2 大学関係サイトにおける「学習」「学修」の比率

グラフ 2 より、高校関係サイトと大学関係サイトで「学習」「学修」の比率に有意差が認められなかった「生涯」「日本語」「発見」「問題解決」は、「学習」との共起率がほぼ 100%であることがわかる。具体的な数値を挙げると、「生涯学習」が 100%、「日本語学習」が 99.9%、「発見学習」が 99.5%、「問題解決学習」が 99.8%である。

また、高校関係サイトと大学関係サイトで「学習」「学修」の比率に有意差が認められた前部要素のうち、「英語」「家庭」「環境」の 3 語についても、「学習」との共起率がほぼ 100%であった。具体的な数値を挙げると、「英語学習」が 99.7%、「家庭学習」が 99.9%、「環境学習」が 99.8%である。

以上に挙げた「学習」との共起率がほぼ 100%の前部要素は、いずれも「中教審答申 24.8.28」において「学修」と結びつく例は存在しない。また、このうち、「生涯」「発見」「問題解決」の 3 語は、「中教審答申 24.8.28」では「学習」と結びつく形で用いられている。

一方、「学習」との共起率が 90%を割っていた前部要素は、「教室外」「準備」「能動的」の 3 語である。具体的な数値を挙げると、「教室外学習」が 72.9%、「準備学習」が 85.2%、「能動的学習」が 83.8%である。これらは、いずれも「中教審答申 24.8.28」で「学修」と結びつく形で用いられており、「教室外」と「学修」が結びつく例は 1 例のみであるが、「準備」「能動的」と「学修」が結びつく例は 4 例であった。

残る「協働」「自主」「主体的」「体験」「調査」「補習」と「学習」との共起率は、94%～99%の範囲内であった。このうち、「協働」「自主」「主体的」「補習」は、「中教審答申 24.8.28」中に「学修」と結びつく例が 1 例ずつ存在した。また、「体験」「調査」は、同じく「中教審答申 24.8.28」中に「学習」と結びつく例が 1 例ずつ存在した。

5. 考 察

以上, 前節では, 教育現場における「学習」「学修」を後部要素とする合成語の使用に関する調査結果を見てきた。

まず, 「中教審答申 24.8.28」を対象とした調査からは, 「中教審答申 24.8.28」においては, 「学習」「学修」を後部要素とする合成語においても, 「学習」「学修」を前部要素とする合成語と同様, 「学修」の方が「学習」より多く用いられていることが確認された。

また, 「学習」は, 大学の学びに限定されない学びとして「生涯学習」という合成語の中で使用されるほか, 「調査」「体験」「発見」「問題解決」のように, 学ぶ上でのタスクを表す前部要素と結びついて用いられていることが確認された。

次に, BCCWJ, TWCを対象とした調査からは, 「中教審答申 24.8.28」中の「学習」「学修」の前部要素は, BCCWJ, TWCでは, 【がくしゅう】と結びつく例の存在しなかったものを別とし, いずれも「学修」ではなく「学習」と結びつく傾向にあることが確認された。従って, 本調査結果より, 「中教審答申 24.8.28」中の「前部要素+学修」は, 従来, 一般に「前部要素+学習」として記してきた合成語であり, 「中教審答申 24.8.28」中の「前部要素+学修」は従来とは異なる表記法であるということができる。

続いて行った, CiNii Articles 登録論文タイトルを対象とした調査からは, 「学習」「学修」の前部要素は, 【がくしゅう】と結びつく例の存在しなかった「教室外」を別とし, いずれも「学修」ではなく「学習」と結びつく傾向にあることが確認された。

また, 「能動的学修」のみ「中教審答申 24.8.28」が出される以前と以後で出現比率に有意な増加が確認された。「能動的学修」は, 「中教審答申 24.8.28」中の「前部要素+学修」のうち, 「準備学修」と並び出現頻度の最も高かった合成語であり, 「中教審答申 24.8.28」のテーマである

「学士課程教育の質的転換」との関連性の高い語の一つである。「中教審答申 24.8.28」が出される以前と以後とで CiNii Articles 登録論文タイトル中の「能動的学修」の出現比率に有意な増加が見られたのは、このような背景に起因すると考えられる。

最後に行った、高校関係サイト、大学関係サイトを対象とした調査からは、いずれのサイトにおいても、前部要素は「学習」と結びつく傾向にあるが、その傾向は高校関係サイトの方が顕著であることが確認された。

また、大学関係サイトにおいては、前部要素の種類により「学習」と「学修」の比率に相違が見られた。具体的に示すと、「学習」との共起率がほぼ 100%の「英語」「家庭」「環境」「生涯」「日本語」「発見」「問題解決」の 7 要素は、いずれも「中教審答申 24.8.28」において「学修」と結びつく例が存在しなかった。中でも「生涯」「発見」「問題解決」の 3 要素は、「中教審答申 24.8.28」では「学習」と結びつく形で用いられていた。一方、「学習」との共起率が 90%を割っていた「教室外」「準備」「能動的」の 3 要素は、いずれも「中教審答申 24.8.28」で「学修」と結びつく形で用いられていた。中でも「準備」「能動的」の 2 要素は「中教審答申 24.8.28」中の「前部要素+学修」における前部要素のうち最も頻度が高かった。残る「協働」「自主」「主体的」「体験」「調査」「補習」の 6 要素については、「学習」との共起率は、94%~99%の範囲内であった。いずれも「中教審答申 24.8.28」において「学修」もしくは「学習」と結びついていたが、「中教審答申 24.8.28」において「学修」もしくは「学習」と結びつく例は、1 例ずつしか存在しなかった。

従って、大学関係サイトにおける「前部要素+学習」「前部要素+学修」の出現比率についても、「中教審答申 24.8.28」における使用頻度の影響を受けていると見ることができる。

ただし、「教室外学修」については、「中教審答申 24.8.28」において出現頻度がわずか 1 であるにもかかわらず、大学関係サイト上での出現比率は、他の出現頻度が 1 の「前部要素+学修」に比べ顕著に高い。具

体的数値を挙げて比較すると, 「協働学修」が1.5%, 「自主学修」が1.7%, 「主体的学修」が5.2%, 「補習学修」が1.6%であるのに対し, 「教室外学修」は, 27.1%である。この原因としては, 「中教審答申 24.8.28」が出された時点から, 本調査を実施した2015年9月3日時点までに, 「教室外学修」という語が教育政策におけるキーワードとして中教審の審議の場などで継続的に用いられている可能性が考えられる。この語は「中教審答申」では「教室外学修プログラム」という合成語の構成要素として使用されているが, 「教室外学修プログラム」という語は, 事実, 文部科学省のサイト上で公開される以下の会議資料などでも用いられている。

- 2013年3月1日「【資料1】『体系的なキャリア教育・職業教育の推進に向けたインターンシップの更なる充実に関する調査研究協力者会議』の設置について」体系的なキャリア教育・職業教育の推進に向けたインターンシップの更なる充実に関する調査研究協力者会議（第1回）⁸
- 2014年3月25日「中央教育審議会高大接続特別部会審議経過報告（抜粋）」中央教育審議会高大接続特別部会⁹

従って, 以上より, 大学関係サイトにおいては, 現段階において「前部要素+学習」の出現比率の方が圧倒的に高いものの, 国が教育政策と関係づけて使用している用語に関しては, そうでないものに比べ「学修」の出現率が高いといえることができる。

6. お わ り に

以上, 本稿では, 教育現場において「学習」「学修」を後部要素とする合成語の使用が, 「中教審答申 24.8.28」が取りまとめられる以前と以後

とでどう変化したかについて分析してきた。その結果、現時点における国の教育政策と関わりの深い用語を中心に、大学の教育現場において「前部要素+学修」の使用の増加が認められることが明らかとなった。しかしながら、このような語も、それ以外の場では依然として「前部要素+学習」で記すのが一般的である。

「中教審答申 24.8.28」により、原義を離れ、新たに「大学での学び」を意味するものとして大学の教育現場に登場した「学修」であるが、この意の「学修」が、今後、国の教育政策と関わりの深い用語以外にも適用されていくのかについては、経年的調査が必要となる。また、「学習」から「学修」への置き換えが、大学の教育現場以外のレジスターにも拡大するのかについても、同様に、経年的調査が必要となる。従って、これらの調査は、時を改めて行いたい。

注

- 1 収録見出し語 37 万 5 千余条の規模をはこる、最大規模の中国語辞典『汉语大词典』の縮印本。
- 2 国立国語研究所が現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築したコーパス。
- 3 筑波大学が日本語のウェブサイトから構築した 11 億語の大規模日本語コーパス。
- 4 国立国語研究所で開発されたコーパスを検索することができる Web ツール。
- 5 TWC を検索することができる Web ツール。
- 6 各検索結果については、検索結果画面を PDF ファイル形式で保存した。
- 7 各検索結果については、検索結果画面を PDF ファイル形式で保存した。
- 8 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/055/attach/1331536.htm
- 9 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/__icsFiles/afiedfile/2014/03/31/1346146-2-2.pdf

参考文献

- 新村出編 (2008) 『広辞苑』第 6 版 岩波書店
 羅竹風編 (2007) 『汉语大词典縮印本』上巻 上海辞書出版社
 渡邊ゆかり (2016) 「教育政策に揺れる日本語、『学習』vs.『学修』1—『学習』『学修』を前部要素とする合成語—」 広島女学院大学編『広島女学院大学論集』第 63 集